

6 総合原価計算での仕損・減損

- ・仕損－製造途中で失敗し、不良品が発生すること。
- ・減損－蒸発などにより材料の一部が消失すること。

仕損費、減損費の処理

- 〔 完成品のみに負担させる場合
- 〔 完成品と月末仕掛品の両者に負担させる場合

の2パターンがある。

正常仕損（減損）が工程のどの段階で発生したかが重要。

- ① 正常仕損（減損）が工程の終点で発生した場合－仕損（減損）費を完成品のみに負担させる。
- ② 正常仕損（減損）が工程の始点で発生した場合－仕損（減損）費は完成品と月末仕掛品の両者に負担させる（度外視法）。

（1）完成品のみが負担する場合 （問題）

次の資料に基づき、月末仕掛品原価、完成品総合原価、完成品単位原価を計算しなさい。平均法を用いること。

〈生産データ〉

月初仕掛品 600 kg (1/2)
当月投入 4,200 kg
合 計 4,800 kg
正常仕損 150 kg
月末仕掛品 900 kg (2/3)
完成品 3,750 kg

〈原価データ〉

月初仕掛品原価
直接材料費 620,000 円
加工費 676,000 円
当月製造費用
直接材料費 3,904,000 円
加工費 9,134,000 円

なお、() は加工進捗度を示し、材料は工程の始点で投入する。また、正常仕損は工程の終点で発生した。

(解答)

平均法

仕掛品

材料費 620,000 加工費 676,000	材料 600 kg 加工 300 kg	3,750 kg 3,750 kg	仕損費も含めて計算する。
材料費 3,904,000 加工費 9,134,000	材料 4,200 kg 加工 4,200 kg	仕損 150 kg 150 kg	
		900 kg 600 kg	

$$\text{完成品材料費} = (620,000 + 3,904,000) - 848,250 = 3,675,750 \quad \text{①}$$

$$\text{完成品加工費} = (676,000 + 9,134,000) - 1,308,000 = 8,502,000 \quad \text{②}$$

以上より、

- ・ 月末仕掛品原価 = $848,250 + 1,308,000 = 2,156,250$
- ・ 完成品総合原価 = $\text{①} + \text{②} = 12,177,750$ 円
- ・ 完成品単位原価 $12,177,750 \div 3,750 \text{ kg} = 3,247.4$ 円/kg

【注意】

(2) 完成品と月末仕掛品の両者負担の場合

度外視法－正常仕損（減損）の数量を無視して計算し、仕損費（減損費）を月末仕掛品と完成品の両者に自動的に負担させる方法のこと。

(問題)

次の資料に基づき、完成品総合原価と月末仕掛品原価を計算しなさい。先入先出法を用いる。

〈生産データ〉		〈原価データ〉	
月初仕掛品	200 個 (1/2)	月初仕掛品	
当月投入	550 個	直接材料費	393,000 円
合計	750 個	加工費	297,000 円
正常仕損	150 個	当月製造費用	
月末仕掛品	200 個 (3/4)	直接材料費	957,000 円
当月完成	400 個	加工費	1,188,000 円

材料はすべて始点で投入している。() は加工進捗度を示している。

正常仕損は工程の始点で発生しており、正常仕損費は完成品と月末仕掛品の両者に負担させる。仕損品の評価額はゼロである。

(解答)

仕掛品

材料費 393,000 加工費 297,000	材料 200 個 加工 100 個	400 個 400 個	材料費 871,500 円 加工費 1,089,000 円
材料費 957,000 円 加工費 1,188,000 円	550個⇒400 個 600 個⇒450 個	月末 200 個 150 個	材料費 478,5000 円 加工費 396,000 円
		仕損 150 個 150 個	

仕損は無視（度外視）して計算すると自動的に
完成品と月末仕掛品の両者に負担されます。

以上より、

$$\text{完成品総合原価} = 871,500 + 1,089,000 = 1,960,500 \text{ 円}$$

$$\text{月末仕掛品原価} = 478,500 + 396,000 = 874,500 \text{ 円}$$

※仕損品に評価額（価値）がある場合は、仕損品の原価からその評価額を引いた金額が正常仕損費となる。

